

# 地方創生への貢献と 先端科学の遂行を実現する 「農学教育研究拠点」



応用生物科学部 学部長 光永 徹

はじめまして、本年4月から学部長を拝命いたしました、光永でございます。

各務同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素は同窓会活動に対しまして格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

今年度に入り大学は、新型コロナウイルスの影響を受け、一定期間の学内閉鎖やオンライン授業などこれまで経験したことのない未曾有の事態に直面しています。しかしながら、新しい生活の様式や教育の様式を積極的に取り入れながら、教育の質の保証を維持できるように教職員・学生力を合わせて取り組んでいます。

さて皆様も新聞やテレビ等の報道でご存じのように、今年4月から岐阜大学は名古屋大学と法人統合し、両大学は東海国立大学機構（東海機構）の傘下に入ること、一法人複数

数大学制度が全国に先がけて走り出しました。また東海機構直轄の研究や教育の4拠点が設置され、その一つに「農学の教育研究拠点」が入ることになりました。この拠点では、名古屋大学生命農学研究科との補充教育の充実化を見据えて、少子化に伴う学力の低下を抑制するための魅力的な教育プログラムを策定し、優秀な人材確保を念頭に置いた戦略的教育を実施するための10年先のビジョン策定を現在行っているところでもあります。その中では、新しい先進的な農学を目指すための教育と研究、人材育成、社会・国際貢献等が議論され、将来は両学部の統合も視野に入れた議論が始められています。

この農学の連携が進む一方で、(共同)獣医学部の設置に向けた改組も始まりました。共同獣医学科は、国際的に通用する獣医学教育を展開し、学部における獣医学ジェネラリスト教育、そして大学院における獣医学スペシャリスト教育を通して、「国際社

会および地方に貢献する獣医師養成拠点」としての役割を果たすために(共同)獣医学部の設置申請を進めています。また、工学研究科と連携して設置された自然科学技術研究科(修士課程)は今年で4年目を迎え、設置当初に比べ学生教員ともに徐々に融合し、カリキュラムをはじめとするシステムにも慣れてきた感があります。

現在、校舎の老朽化対応と耐震補強を目的として大改修工事が進められています。昨年第一期工事でB棟(共同獣医学科)の工事が終了し、今年度は第二期工事にあたるA棟西側5(7階(応用生命科学課程)が終了いたしました。今年の後半から来年にかけて第三期工事(生産環境科学課程と事務室)が予定されています。第四期も含めたすべての工事が終了するまであと2年ほどかかる予定です。是非ご出身の新しい研究室を一度お尋ねいただき、学生達と懇談していただければ幸いです。

全国農業協同組合連合会岐阜本部、岐阜県そして岐阜大学が連携して、美濃加茂農場に「飛騨牛繁殖研修センター」が昨年設置され、今年4月から3人の研修生による研修事業がスタートしました。2年間の研修で繁殖と肥育の技術や知識・衛生管理を学び、担い手の育成と飛騨牛減少

の歯止めを目指しています。

昨年4月に岐阜県食品科学研究所在が学内に設置されたことで、応用生物科学部との教育と研究の連携はさらに深まっております。今年から食品研究所員による学部講義の一部担当を担ってもらっています。また、柳戸農場に隣接する岐阜県中央家畜保健衛生所におきましても共同獣医学科や野生動物管理学研究センターとの連携が年々進んでいる状況であります。

名古屋大学生命農学研究科と岐阜大学応用生物科学部が連携によって発揮される強みと特色は、①農学系学部で全国3位の規模(教員数)になること、②基礎から応用までの教育研究体制が揃っていること、③「農学」の多様な分野の全体をカバーできること、④先端研究をもつて地域貢献・社会貢献ができること、⑤日本と世界の課題解決に向けた活動を推進することなどが挙げられます。

応用生物科学部長として、高まりつつある新しい「農学」への期待と重要性をこの東海地域から「農学教育研究拠点」を発展させることで応えていく所存であります。今後とも同窓生の皆様からの温かいご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



97周年 ご挨拶

各務同窓会会長 柵木 利昭 (V大16)



各務同窓会の皆様にはコロナ禍の中いかがお過ごし

でしょうか？ 平素は各務同窓会の事業・活動にご支援ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

97年前の関東大震災の年、1923年各務野の台地に官立岐阜高等農林学校(1944年岐阜農林専門学校に改称)は創立されました。

その後1949年には改組され国立岐阜大学農学部になり、1982年に59年間住み慣れた各務原から黒野キャンパスへ移設されました。国立岐阜大学が2004年国立大学法人岐阜大学となるとともに、農学部は応用生物科学部へと改組されました。

令和元年6月1日岐阜大学は創立70周年を迎え、盛大な式典・祝賀会が挙行され、特記すべきは5年の歳月をかけて開発された岐阜大酒が披露され、大好評を博しました。この岐阜大酒は岐阜大学キャンパス内の水、学生が磨き上げた酵母、そして学生が育てた岐阜大酒米ひだほまれを用いた岐阜大酒用生物科学部の独自のブランド酒

(多望の春 岐山/曲阜)であります。

2020年(令和2年)4月1日コロナ禍の中、国立大学法人岐阜大学は国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学となりました。

この機構に名古屋大学と共に参画し、今後の日本のさらなる少子化の時代にむけ崖っぷちの両大学ともに生き残りをかけた選択とし、さらに学長は「現状にとどまるのではなく両大学の特徴ある分野を生かし世界に通用する研究拠点を作り発展させていく」と述べています。

岐阜大学が名古屋大学と統合する?と聞かれた時、同窓生の皆様は驚かれたと思いますが、1つの国立大学法人東海国立大学機構に岐大と名大が自律しながら深く連携する構想で決して岐大がなくなるという言葉ではありません(学長)。あえて言えば「和え物」のように複数の食材が互いの良さを失わず互いに他を引き立てる料理のようなものでしょうか。

岐阜大学応用生物科学部は今までも連合農学研究科や連合獣医学研究科あるいは岐阜県の中央家畜保健衛生所や食品科学研究所をキャンパス内に設置するなど他大(静岡大、東京農工大、岩手大、帯広大、鳥取大)や岐阜県の研究所と連携し成果をあげる成功経験

もあり、他組織と連携することは応用生物科学部の得意技とするところであります。

岐阜高等農林学校はこのように時代の要請に答え校名や学部名、学科名、研究室名あるいは講座名を変えてきましたが、農学の本分である食と命と環境を学び、究め、貢献していくことに変わりはありません。これは正に芭蕉の言う「不易流行」であります。

令和になってからも集中豪雨、昨年の豚コレラ、そして今年のコロナ禍など自然災害による不条理が続く中各務同窓生の皆様にはそれぞれ置かれた場所で、ご苦労、ご心労あるいはご尽力されていると拝察されますが、正確な情報に基づき正しく恐れ対処して、

コロナ禍を乗り越え、3年後の2023年6月3日の100周年を我々が「多望の春 岐山/曲阜」で祝おうではありませんか。

幹事長からのご挨拶

幹事長 石田 秀治



昨年度に続いて各務同窓会幹事長を務めさせて頂き

ます、応用生命科学課程分子生命科学コースの石田(昭和57年農芸

化学科卒・C大30)と申します。どうぞ宜しくお願い致します。また、3年後に迎える100周年の大学側担当も務めさせて頂きます。ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

まずは、この度のコロナ禍において、岐阜大学緊急対策プロジェクト学生支援プラン「夢をあきらめるな」の実施に対し、多くの皆様から多額のご寄付を頂戴致しました。心より御礼申し上げます。大学や各研究室からお願いに加えて、各支部を通じても寄付のお願いをさせて頂きましたので、複数の案内が届いた会員の方もいらつしやると思います。ご厚意、本当に有難うございます。

この度のコロナ禍において、同窓会活動も大きな影響を受けています。まず毎年6月第1土曜日に開催していただきます各務同窓会代表員会ですが、取り敢えず実施を延期致しました。学部によっては開催を断念した同窓会もあります。本同窓会と致しましては、年に一度皆様と顔を合わせる貴重な機会だと思ひ、10月31日への延期としました。この会報が皆様に届く頃このコロナ禍がどのような状況なのか想像は難しいですが、是非開催できていることを願っています。各支部の支部会の中止の連絡も複数頂いています。また、入

学式の中止などで新入生への勧誘活動も十分に行えていません。岐阜大学では1年生に対して対面講義を実施するのを基本としていますので、機会を見つけて勧誘活動を続けておりますが、例年より入会者が少なくなっています。

コロナ禍において、新しい生活様式(New Normal)の確立が望まれています。同窓会活動においても同様だと思います。社会における不要不急の活動の見直しが進む中で、同窓会活動の持つ意義・重要性を皆様と再確認させて頂き、より効率的な方法で同窓生の絆を深められればと思います。そして、3年後の100周年に向けて、再度歩み始めたいと思います。

同窓会活動において一つ大きな動きがあります。現在、岐阜大学には各学部の同窓会と、その連合組織としての同窓会連合会があります。今、同窓会連合会の更なる発展として「岐阜大学校友会(仮称)」設立の準備が進められています。同窓生だけではなく、同窓生の家族、卒業生が就職している企業など、広く岐阜大学のサポートを募って参加して頂く組織です。各学部の同窓会と共に岐阜大学の活性化に資する組織になればと思っています。

末筆になりますが、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

# 令和2年度各務同窓会代表委員会を断念

令和2年度各務同窓会代表委員会中止のお知らせ



令和2年9月15日に行われました、各務同窓会役員会において、令和2年度各務同窓会代表委員会の開催を断念せざるを得ないことを確認しました。新型コロナウイルスの懸念があるためです。岐阜大学では、秋に開催される、岐阜大学祭や岐阜大学の同窓会連合会の集いも中止になっています。例年ですと、代表委員会で議論される、年次計画については各支部会に書面でご連絡し、ご意見を伺うこととなりました。



ご意見をよりしくお願いします。残念ながら、今年度は、各支部においても活動ができない状態が続いていると思います。今は我慢の時期かと思いますが、来年度には再度活動が可能になります。また、その先に控えている100周年記念事業を成功させる必要もあります。各務同窓会の会員の皆様には、今後を見据えて、ご自愛の程くれぐれもよろしくお願い致します。

## 令和元年度 支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
東京E科会	1.05.23	千家 正照 東京E科現役会と合同開催
東京E科現役会	1.05.23	千家 正照 東京E科会と合同開催
愛知県各務会・愛知各務会	1.05.18	千家 正照
愛知県高等学校教員	1.06.22	杉山 誠
岐阜県高等学校	1.06.22	向井 讓、石田 秀治
石川県	1.07.06	前澤 重禮
岐阜	1.07.07	杉山 誠、柵木 利昭、石田 秀治
愛知県職員林務関係同窓会	1.07.20	石田 秀治、加藤 正吾
愛知県職員農業関係各務同窓会	1.10.04	石田 秀治、西村 直正
岡山県	1.10.27	光永 徹
江南	1.11.09	向井 讓
中濃	1.11.09	山田 邦夫
徳島鳴門会	2.01.18	前澤 重禮
岐阜県職	2.02.01	杉山学部長、光永副学部長、石田 秀治、八代田真人、柵木会長、平工副会長
岐阜市役所	2.02.12	石田 秀治

## 令和2年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	光 永 徹	
会長	柵 木 利 昭	(V大16)
副 会 長	正 村 洋 一 郎	(F大25)
	伏 見 知 彦	(C大18)
	北 川 精 一	(V大18)
	川 島 光 夫	(P大7)
	高 橋 實	(A大13)
	平 工 孝 義	(A大25)
相 談 役	村 山 巖	(E大23)
	杉 山 幹 夫	(M1)
	新 藤 秀 逸	(SP21)
	中 村 孝 雄	(N大7)
	後 藤 悦 男	(V大2)
	水 野 隼 人	(C大15)

## 令和2年度幹事長、幹事及び監事

幹事長	石田 秀治	(応用生命科学課程)
幹 事	(庶務・幹事長代理) 鈴木 正嗣	(共同獣医学科)
	(事業) 岩橋 均	(応用生命科学課程)
	(会計) 西村 直正	(生産環境科学課程)
監 事	福士 秀人	(共同獣医学科)
	清水 将文	(生産環境科学課程)

各務同窓会報

令和元年度各務同窓会決算報告

自 令和元年4月1日 至 令和2年3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 会費, 雑収入, 基本金特別会計より繰り入れ, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 事務費, 会議費, 事業費, 名簿関係費, etc.

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 終身会費, 雑収入, 利子, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 一般会計への繰入, 振込料, etc.

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 基本金特別会計より繰入, 利子, 募金, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 事務費, 会議費, 旅費, 雑費, etc.

4. 資産現在高

Table with 3 columns: 項目, 年度始現在高, 現在高. Rows include 一般会計, 基本金特別会計, 百周年記念事業会, etc.

5. 資産保管状況

Table with 4 columns: 項目, 一般会計, 基本金会計, 百周年記念事業会. Rows include 現金, 普通預金, 定期定額貯金, etc.

令和2年度各務同窓会予算(案)

収支予算書 (令和2年4月1日~令和3年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 会費, 雑収入, 基本金特別会計より繰り入れ, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 事務費, 会議費, 事業費, 名簿関係費, etc.

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 終身会費, 雑収入, 利子, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 一般会計への繰入, 振込料, etc.

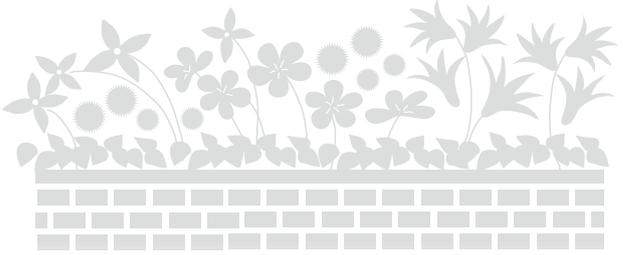
3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 前年度予算額, 比較増△減額. Rows include 基本金特別会計より繰入, 利子, 募金, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 前年度予算額, 比較増△減額. Rows include 事務費, 会議費, 旅費, 事業費, etc.



# 学園だより

課程等の近況

## ◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、この大変な社会状況の中ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。令和2年度も課程長として本課程の発展に尽力したいと思います。本年度は、光永徹副学部長が4月より学部長に就任され、また後任の副学部長に西津貴久教授が就任されましたので、分子生命科学コース長の中川寅教授、食品生命科学コース長の矢部富雄教授のご協力を頂きながら、課程の運営を進めてまいります。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生84名を送り出し、そのうち48名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は55名で、そのうち3名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に81名の新生及び4名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には令和元年度秋季入学生1名を加えて54名が入学しています。

続いて教員の動向をお知らせし

ます。昨年転出された寺本好邦准教授の後任に、京都大学から鈴木史朗准教授（バイオマス変換学）をお迎えしました。先生には、既に、教育・研究・運営面で獅子奮迅のご活躍を頂いています。9ページの自己紹介をご参照ください。また、来年3月末日を以って食品生命科学コースの前澤重禮教授（食品流通科学）が定年退職されます。前澤先生には、自然科学

に裏打ちされた社会科学という視点で、本課程の教育・研究にご貢献頂きました。本当に有り難うございました。先生は、来年度設置構想中である社会システム経営学環（仮称）の特任教授として、来年度以降もご指導頂く予定です。

この部局は、岐阜大学に初めて設置される社会科学系の教育組織であり、前澤先生の益々のご活躍が期待されます。明年2月10日に最終講義が予定されていますので、多数のご来聴をお待ちしております。申すまでもなく、コロナ禍によって大学教育も大きな影響を受けています。本課程では、大学の方

針に従って、1年生に対しては対面の教育を基本とし、上級生には遠隔講義を行なっています。但し、本課程の根本を成す学生実験や実習につきましては、感染の予防に最大限の注意を払いながら対面で実施しています。また、本課程の人材育成に必須な教育である卒業研究や修論研究も、十分な注意を払いながら、例年通りの充実した内容で実施しております。

末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。  
(石田秀治)

## ◆生産環境科学課程

昨今の新型コロナウイルスの影響が大きい状況ではございますが、各務同窓会の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。本年度の生産環境科学課程長を務めさせていただく小山博之（教授・応用植物学コース）です。宜しくご指導お願いいたします。

さて、本年は年明けからのコロナウイルスの感染拡大と、それに対応した非常事態宣言の発令、遠隔講義への移行（4月当初より）に始まり、一部対面講義の開始（5月下旬より）と感染の再拡大

（7月～8月）による再検討の開始

等、講義を受ける側・実施する側の双方にとって、様々なチャレンジが必要な年となりました。會員の皆さまにおかれましても、新しい日常の中でご苦労が多かったのではないかと推察しております。

そのような状況の中でも、3月末には80名の学士（生産環境科学課程）と、45名の修士（自然科学技術研究科生物生産環境科学専攻）が卒業・修了し、87名の学部入学生（他に5名の3年次編入学生）と、42名（1名は秋入学含む）を迎え入れました。卒業式も入学式も大勢であつまる形では実施できない状況の中で、節目を迎えることになった皆さんには、色々ご苦労も多かつたのではないかと思います。

卒業・修了時には、野間明加里さんが学長表彰を、羽賀夏子さん、及川琳加さんが学部長（研究科長）表彰を、金原弘武さん、櫻村陸希さんが同窓会長表彰を、山下みずきさんが専攻長表彰をそれぞれ受けております。また、創立記念日には、川澄光さんが学長表彰を受けました。学外においても、3件の学生さんによる学芸発表表彰（山根京子准教授、川窪伸光教授及び、乃田啓吾助教、伊藤健吾准教授、千家正照教授の共同指導）を受け

ております。

教員の異動については、令和2年3月末をもって、千家正照教授（連合農学研究科長などを歴任）がご退職されました。コロナ禍の中、予定されていた最終講義などは残念ながら中止となりました。令和3年3月には、土井守教授（生産環境科学課程長などを歴任）が退職されます。課程の発展にご尽力いただいた両先生には感謝いたします。その他の異動としては、令和元年度後半に嶋津光鑑先生が教授に昇任され、本年は応用植物学コース長として、松村秀一教授（応用動物学コース長）及び土田浩治教授（環境生態学コース長）と共に、教育・研究推進の中心として活躍いただいております。

管理運営については、平松研教授（連合農学研究科長）、山田邦夫教授（副学部長）などが活躍されています。教員の研究に関しては、千家正照教授（日本雨水資源化システム学会学術賞）及び、森部純嗣准教授（第11回日本哺乳類学会論文賞、電子情報通信学会 安心・安全ベストプラクティス賞）が、学会より表彰を受けております。

末筆ながら、同窓会会員各位のご健勝とご活躍を祈念いたします。  
(小山博之)

（小山博之）

## 各務同窓会報

## ◆共同獣医学科

各務同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本年4月に学科長を拝命致しました。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

共同獣医学科の現況をお知らせ致します。本学科は8年目に入り、今年度は68名(岐阜大学30名、鳥取大学38名)の新入生を迎えました。また、3月には第2期生68名(岐阜大学35名、鳥取大学33名)が卒業しました。岐阜大学の卒業生35名は獣医師国家試験に全員合格し、3年連続となりました。過去2年間、獣医系16大学のうち2年連続で全員合格したのも岐阜大学だけであり、3年連続は特筆すべき快挙です。今後、獣医師としてそれぞれの分野で活躍されることを期待しております。

教員人事では、本年4月に人獣共通感染症学研究室の杉山誠先生が、国立大学法人東海国立大学機構理事・岐阜大学副学長に就任され、機構・大学の運営に尽力されています。また、4月に解剖学研究室の齋藤正一郎先生、病理学研究室の酒井洋樹先生、人獣共通感染症学研究室の伊藤直人先生が教授に昇任し、病理学研究室の

助教に平田暁大先生が着任しました。6月には外科学研究室内の助教に宮脇慎吾先生が着任しました。研究の成果としては、生理学研究室の椎名貴彦先生が2019-2020年度日本獣医学会賞を受賞されております。

共同獣医学科では、国際通用性・社会性豊かな獣医師養成を目指して、教育研究環境のさらなる改善充実を目指して参ります。コロナ禍中、その終息を願いつつ、末筆ながら同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

(共同獣医学科長 鬼頭克也)

## ◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

はじめに、千家正昭前研究科長のご退職を受け、本年4月に後任として研究科長を拝命いたしました。昨年度までは国際担当の研究科長補佐として研究科の管理運営に参画はしておりましたが、まだまだ不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることもあろうかと思っております。どうかご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

また、同じく本年度4月には、管理部門人事労務課に異動された横田昌子氏の後任として野村友里氏を連合大学院事務室長に迎え、国際担当の研究科長補佐は新たに矢部富雄教授にお引き受けいただきました。中野研究科長補佐(専任教員)、千原英司特任教授(キャリアパスコーディネータ)、中峰明春

係長、今井健太郎、高橋敦子、戸本悦子、栗本薫乃、伊藤輝美各氏は変わらず研究科の管理運営に努めております。研究科の重要事項を決定する代議員会には、松井勲先生、山本朱美先生、上野義仁先生、中川智行先生、今村彰宏先生にご参画いただいております。

さて、昨年度の学位授与者は課程博士17名、論文博士3名であり、例年とほぼ変わらない人数となりましたが、本年度4月の入学生についてはコロナ禍の影響を受け、海外からの入学予定者は入学を延期せざるを得ず、日本人のみ14名の入学となりました。また、入学はしていただいたものの、入学式も執り行うことは出来ず、講義や実習もままなりません。他都府県の居住の社会人学生には大学に来ることも出来ない方もおり、遠隔会議システムだけが頼りになるような状況です。このままでは、海外からの

入学は10月も困難であり、非常に困った事態になりそうです。昨年度は10月に第7回農学系博士教育国際連携円卓会議と第10回国際シンポジウム(A New Era in Food Science and Technology)を岐阜で開催し、11月には本研究所も共同主催者となっている国際会議(The 4th International Conference on Climate Change)がインドネシ

ア・ガジャマダ大学で行われ、多くの教員が海外に研究を発信するとともに、海外研究者とも交流を深めました。本年度も同様の国際活動を予定しておりますが、海外からの、また海外への移動は依然厳しい状況であるため、いずれも遠隔会議システムでの実施となる見込みです。なお、見方を変えると、インターネット環境があれば容易に国際会議に参加出来るということにもなりますので、決して悪いことばかりとはいえません。本研究科のホームページにおいて詳細を紹介いたしますので、ご興味のある方は是非ご参加いただければと存じます。

現在、本研究科の在籍者は総数95名で、うち、49名が外国人留学生、21名が社会人学生となっております。外国人留学生の数については、国際的な吸引力があるものと、社会人学生の数については社会から

見ても魅力のある研究科になっている証左であると森脇学長からも高い評価をいただいているところです。コロナ禍という大きな障害だけでなく、法人統合に伴う名古屋大学大学院生命農学研究科との連携模

索など、課題は山積しておりますが、国内外において注目されるような農学の拠点として進化するように努めて参りたいと思っております。末筆になりますが、同窓会会員諸氏のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(平松 研)

## ◆連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。令和元年度の本研究所の学位授与者数は、課程博士27名、論文博士5名の計32名でした。また、令和2年9月に、課程博士7名、

論文博士1名の計8名に学位が授与されました。本研究所は、平成30年度に受け入れた学生が最後のため、現在3年生以上の学生44名(うち留学生8名)が在籍しております。44名の在籍生を無事修了させるように、基幹校として社会に貢献する人材育成に務めてまいり

各務同窓会報

ます。

新型コロナウイルスの大流行は、社会に深刻な問題を引き起こし、その余波を含めて経済活動や教育等に大きな変化をもたらしました。前期の中間報告会（3年生対象）、学位審査会及び研究科委員会はウェブを利用して開催（ウェブ開催）しました。後期も、この状況が続くようであれば、ウェブ開催することとしてい

ます。これまで、連合獣医学研究科は学生や教員が顔を合わせて運営してまいりましたので、初めての経験として取り組んでいくところとす。今後、ウェブ開催を十分評価して、研究科の運営に生かしていきたいと考えています。

後1年半は、本研究科の学生は新大学院の学生とともに、国内外の獣医学を発展させるために様々な研究活動を続けていきます。今後ともご支援のほどよろしくお願

い申し上げます。（浅井鉄夫）

共同獣医学研究科

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度開設されました岐阜大学大学院共同獣医学研究科共同獣医学専攻が2年目を迎えました。現在、9名の大学院生が在籍しており、日本人学生が6名、留学生が3名です。日本人学生のうち3名は社会人学生であり、仕事をやりながら研究活動にも取り組んでおります。

開設を迎えた昨年度は、9月に「学際領域特別演習」を開講し、学生及び教員が共同大学院を設置している鳥取大学に集いました。この演習では、学生による研究計画の発表会を実施しましたが、学生や教員から様々な質問が出され、活発な議論が行われました。自分の専門分野とは異なる教員からの指摘は、時に思いもよらない

「気づき」を得られることがあり、学生にとって貴重な体験になったのではと思います。今年度は岐阜が開催大学となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により対面授業での実施が困難な状況です。

新型コロナウイルス感染症は我々の生活をがらりと変えてまいりましたが、このような状況下でも共同獣医学研究科の教育・研究を発展させるよう、努力を続ける所存であります。つきましては、

皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。（海野年弘）

附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会会員の皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2月から続く新型コロナウイルス感染症のため、フィールド教育では宿泊実習の中止等の感染防止対策で通常授業ができず、教育効果の低下が心配されます。農場生産物の販売にも大きなダメージが出ています。また、7月に豪雨災害に見舞われた下呂市に位置する位山演習林では自然災害に対するより一層の防災・減災への取り組みが急務になって

います。一方、昨年度始動した美濃加茂農場での飛騨牛繁殖研修事業（JA全農岐阜、岐阜県との連携事業）においては研修棟（40名収容）が今春完成し、第1期研修生を受け入れ、いよいよ本

格化しました。柳戸農場では老朽化した全動物舎の建替え申請が昨年末に文科省に採択され、来年3月の完成に向けて工事が行われています。4月の名古屋大学との法人統合を機に農学教育研究連携、技術職員の組織体制強化等、将来の発展に向けて当センターは様々な役割を担うこととなります。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。（大場恵典）

動物病院

各務同窓会会員の皆様、いつも動物病院の運営にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。動物病院の近況についてお知らせいたします。昨年度の病院収入については約4億4千万円と前年比118%の増収となりました。今年度については新型コロナウイルス感染症の拡大で、飼い主様や動物病院職員、そして病院で実習を行う学生にも様々な影響を及ぼしております。動物病院では状況に応じた感染対策を行っておりますが、今のところ診療に関しての影響は限定的となっております。今

後の動向については予測が困難ですが、十分な注意を払って対応してまいりたいと考えております。職員の動向ですが、外科の渡邊一弘先生が昨年の8月1日付で教授に昇進（昨年度の原稿に間に合

わす今回のご紹介となり申し訳ございません）されました。同じく外科に本年6月1日付で宮脇慎吾先生が助教として赴任されました。また、優秀な先生方に少しでも活躍していただけるよう、昨年度より十分な臨床経験と知識を持った常勤獣医師については、臨床助教として勤務していただくことになりました。すでに内科の濱田興先生と神経科の中野有希子先生

が臨床助教として勤務されています。今後二次診療施設としての高度な診療体制を維持し、東海地域の獣医療の発展、臨床獣医師の育成および教育、動物病院での様々な研究等に貢献するべく努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願

い申し上げます。（森 崇）

各務同窓会報

◆野生動物管理学  
研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まずは、岐阜県の寄附による寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」についてです。本部門は4年目(寄附研究部門としては2期目)を迎え、普及啓発の強化を目的に、連続講座「野生動物を知る」の刷新を図る予定でございました。しかし、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、今年度前半の実施は中止させていただきました。後半につきましては、何らかの形で開催できるように計画を立て直しております。詳細なご案内は、<https://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/>に掲載する予定でございますので、機会があればご覧いただければ幸いです。

昨年度に引き続き、「CSF(豚熱)対策の一環としてのイノシシ管理」をテーマとする研究も続けられております。今年度からは、環境研究総合推進費(環境省)による「イノシシの個体数密度およびCSF感染状況の簡易モニタリング手法の開発」など、国の研究プロジェクトの一部を分担することになりました。すでに、「CSF発生前後の

岐阜市金華山におけるイノシシ個体群の動向 (<https://www.gifu-u.ac.jp/news/research/2020/05/entry217974.html>)」など、注目の高い研究成果も上がっております。

以上のとおり、当センターでは社会的ニーズに迅速に対応しつつ、野生動物管理学の教育研究を進めてまいります。つきましては、同窓の皆様には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

(鈴木正嗣)

◆共同獣医学教育開発  
推進センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度の会報でお伝えした「カリキュラムの改定」につきましても、おかげさまで無事に完了することができました。各科目の開講時期や講義と実習の配置等を改善し、授業コマ数の学年間格差についても縮小に至りました。また、「教育の国際通用性」を念頭に、畜産学や動物栄養学、水産学などの科目を開講したことも、新カリ

キュラムの特徴のひとつです。

さて、「コロナ禍が教育に及ぼした影響」につきまして、数々の報道がなされておりますが、鳥取大学との共同教育も例外ではありませんでした。前期の授業では、共同教育の特徴である教員移動や学生移動は原則として取りやめ、動画の配信を中心とする方式に切り換えております。この体制に関わる効果や問題は、検証事項と位置づけ急ぎ対応を進めなければなりません。

ポストコロナ時代の共同教育のあり方の検討と適切な運用は、本センターに突きつけられた喫緊の課題と強く意識しております。つきましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

(鈴木正嗣)

◆附属家畜衛生地域連携  
教育研究センター  
(GeFAH、ジーフア)

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター

(Education and Research Center for Food Animal Health, Gifu University/ GeFAHジーフア)は、

1)家畜衛生の教育に関すること、  
2)家畜疾病等の学術研究に関すること、および  
3)家畜の防疫・保健衛生対策に関すること、を主な業務内容として掲げ、家畜感染症対策部門と家畜飼養衛生管理部門の、2つの部門で組織されています。家畜感染症対策部門には新中川敬介准教授(獣医微生物学)が加わりパワーアップしました。

GeFAHとして参加し、全国の獣医学系大学により構成している「7大学産業動物防疫コンソーシアム」では、毎年各大学持ち回りでシンポジウムを開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、ウェブ開催となりました。2020年6月現在、新型コロナウイルスはまだに全世界で猛威を振るっており、多くの人たちが生活に不自由を強いられています。

2018年9月の豚熱(CSF)発生以降の養豚農家さん、畜産関連の方々の中には現在COVID-19以上の部分もありました。プタへのワクチン接種に方針転換されるまで、岐阜県、愛知県

を中心に1年以上発生が続きましたが、その間、岐阜県からの要請によりGeFAH、共同獣医学科の教員、獣医師の資格を持つ大学院生が、発生農場での殺処分、防疫措置にのべ82人加わりました。

GeFAHでは今後より一層、家畜衛生教育・研究、自治体および全国の獣医学系大学との連携を進め、社会に貢献することを目指します。今後とも同窓の皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

GeFAHのホームページでは、活動記録を随時更新しております。ぜひご覧下さい。 <http://www.abios.gifu-u.ac.jp/gefah/>

(GeFAHセンター長 猪島康雄)



GeFAHの2種類のロゴマーク

教員の異動

定年退職

R2・3・31 応用生命科学課程 荒幡 克己

R2・3・31 応用生命科学課程 早川 亨志

R2・3・31 生産環境科学課程 千家 正照

昇任

R2・4・1 生産環境科学課程 応用植物科学 准教授から 嶋津 光鑑

R2・4・1 共同獣医学科 獣医解剖学 教授 齋藤 正一郎

R2・4・1 共同獣医学科 獣医病理学 教授 酒井 洋樹

R2・4・1 共同獣医学科 人獣共通感染症学 教授 伊藤 直人

採用

R2・2・1 応用生命科学課程 分子生命科学 准教授 鈴木 史朗

R2・4・1 共同獣医学科 獣医病理学 助教 平田 暁大

R2・6・1 共同獣医学科 獣医外科学 助教 宮脇 慎吾

新任教員のあいさつ



令和2年2月1日付で応用生物科学部応用生命科学課程バイオマス変換学研究室の准教授として着任致しました。

バイオマス変換学研究室 准教授 鈴木 史朗



2020年4月に岐阜大学獣医病理学研究室の助教に着任しました。2001年に本学農学部獣医学科を卒業し、20年ぶりに獣医学科に戻ってまいりました。今回異動するまでの15年間、本学の動物実験施設で助教を務めておりました。動物施設は志学共同利用施設のため、在職中は、学部を問わず、学内の様々な分野の先生方と関係を築くことができました。引き続き母校に勤める機会を得ましたので、今後の獣医学科での活動に活かしていきたいと思っております。

獣医病理学研究室 助教 平田 暁大



2020年6月より岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科 獣医外科学研究室に助教として着任いたしました。

獣医外科学研究室 助教 宮脇 慎吾

私は、平成14年に京都大学大学院農学研究所より博士号を取得し、旧京都大学木質科学研究所、米国ノースカロライナ州立大学で博士研究員として勤務したのち、京都大学生存基盤科学ユニットで特定助教、京都大学生存圏研究所で助教として勤務した後、現職に至ります。研究分野はバイオマス科学で、代表的なバイオマスである植物細胞壁の生合成機構解明を目指し、その成果を新規バイオマス材料や機能性食品開発に応用すべく、研究に取り組んでいます。私は、京都大学農学部に入學し、学部学生時代はセルロース誘導体の化学合成研究を行っていました。大学院から研究室を変え、生きた植物における物質変化を取り扱うようになり、植物の二次代謝成分の生合成研究を行うようになりました。その後の米国滞在時は、植物細胞壁の主要成分であるヘミセルロースの生合成を研究しました。一方、京都大学に教員として戻ってからは、リゲニンの生合成経路や転写制御機構について、ゲノム編集などを道具として用いて研究を続けてきました。この度、自然豊かな岐阜大学にご縁があって勤務することとなり、教育・研究・社会貢献に携われることととてもやりがいを感じております。私が大学生・大学院生の頃、恩師から多大な影響を受け、研究者の道を志したように、私も学生たちに少しでもいい影響を与えような教育をしていきたいと思います。皆様方のご指導、ご支援を賜りますよう、

心よりお願い申し上げます。 2020年4月に岐阜大学獣医病理学研究室の助教に着任しました。2001年に本学農学部獣医学科を卒業し、20年ぶりに獣医学科に戻ってまいりました。今回異動するまでの15年間、本学の動物実験施設で助教を務めておりました。動物施設は志学共同利用施設のため、在職中は、学部を問わず、学内の様々な分野の先生方と関係を築くことができました。引き続き母校に勤める機会を得ましたので、今後の獣医学科での活動に活かしていきたいと思っております。

私は幼少期より趣味で魚釣りをしております。この度10年ぶりに故郷の岐阜に戻ってきたことを機に、当時は金銭的に手が出せなかった「鮎の友釣り」に挑戦してみたいと思います。同窓生の皆様で鮎釣りに連れていってやるという方が見えたら、是非お声掛けください。

教員・旧教員の受賞

森部 千家 池田 森部 大西 田中 絢嗣 正照 敬 絢嗣 健夫 准教授 教授 特任助教 准教授 准教授

第11回日本哺乳類学会 論文賞 令和元年度日本雨水資源化システム学会学術賞 「野生生物と社会」学会 若手奨励賞 2019年 安全・安心な生活とICT研究会安全・安心ベストプラクティス賞 令和2年度水文・水資源学会 学術出版賞 第7回アグリテックグランプリ 日本ユニシス賞

令和元年9月16日 令和元年11月9日 令和元年11月23日 令和2年3月3日 令和2年9月17日 令和2年9月26日

# 退職者記念事業の報告

## 早川享志先生

応用生命科学課程食品生命科学

コースの早川享志先生は令和2年3月末をもって定年退職されました。先生は平成2年3月に本学農学部生物資源利用学科 助手として着任されて以来、長年にわたる食品栄養学分野の教育・研究の発展にご尽力されたご功績により、本学名誉教授の称号が授与されました。

早川享志先生の退職記念事業としては、令和2年2月10日（月）全学共通教育講義棟多目的室において最終講義『科学の発展と栄養』が行われました。本講義には、在学生・教職員のみならず、たくさん卒業生の皆様にも駆けつけていただき、盛大な最終講義となりました。

また、最終講義終了後、岐阜ンティ・タワー43最上階「フォーテイスリー」にて、早川享志先生の退職記念祝賀会が開催されました。本会にも多数の卒業生が集い、懐かしいメンバーとともに早川享志先生のご退職をお祝いしました。退職記念祝賀会にご参加いただきました皆様方には心から御礼申し上げます。

早川享志先生は、現在、名古屋女子大学短期大学部生活学科教授として引き続き教壇に立たれており、また、放送大学や他大学等の非常勤講師など「食品栄養学」の教育活動を精力的に続けていらつしやいます。

早川享志先生の今後の益々のご健勝とご活躍を祈念して、事業報告とさせていただきます。（中川智行）

## 荒幡克己先生

応用生命科学課程食品生命科学

コースの荒幡克己教授は、令和2年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、平成8年岐阜大学農学部に着任後、農学部および応用生物科学部において教育と研究に従事され、その多年にわたる功績により本学名誉教授の称号が授与されました。退職記念事業として、令和2年2月10日（月）午後1時から全学共通教育講義棟多目的室において、「岐阜大学愛唱歌「我ら多望の春にして」の源流を訪ねて」と題する最終講義が行われました。教職員、学生、卒業生の多数のご参加を得て、盛大な最終講義となりました。

講義終了後、応用生物科学部の第1会議室に場所を移して、荒幡先生と同日最終講義を行った本コースの早川享志教授を囲む茶話会を開催しました。教職員、学生、卒業生が先生を囲んで様々な話題で話の尽きない様子でした。

ご退職後も科学研究費補助金の研究代表者として、精力的に研究活動

に取り組まれておられます。また岐阜大学フェローとして、引き続き応用生物科学部の社会科学系分野の教育活動に従事されております。今後の先生の益々のご活躍とご健勝をお祈りして、事業報告とさせていただきます。（西津貴久）

## 千家正照先生

生産環境科学課程環境生態科学

コースの千家正照教授は、令和2年3月をもって定年退職されました。先生には、昭和55年12月に着任されて以来の研究教育および学部・大学運営に尽力された多大な功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

令和2年3月14日に予定されていた最終講義および定年を祝う会につきましては、昨今の社会情勢を鑑み、当面延期としております。2021年夏に、オリンピックが無事開催されたのを確認した後、改めて企画したいと考えております。

現在、千家先生は、ユニオン株式会社岐阜大学研究室室長として、引き続き大学での教育研究活動に従事されています。今後の先生の益々のご健勝とご活躍を祈念して、退職後のお知らせとさせていただきます。（乃田啓吾）

# 退職予定者のあいさつ

## 研究の不連続性

### ーモノの流通からヒトの心の流通へー

#### 前澤 重 禮



退職に当たり、心から岐阜大学に感謝申し上げます。

1992年10月、私は農学部農産物流通科学研究室の助手に着任しました。37歳でした。この時から流通への関わりが始まり28年の歳月が流れ、今日を迎えました。

岐阜大学に赴任して直ぐ、流通の研究（農産物の鮮度保持）に携わりました。赴任直前まで、徳島大学医学部の助手として、細胞融合の研究に没頭していました。

医化学から流通分野へ、今の時代では考えられない異動で「研究の不連続性」を初めて痛感しました。流通の研究にも慣れ、農産物流通科学研究室を担当するようになった

1997年の2月、私はスーパーマーケットで従業員を前にして、ホウレンソウのパッケージ包装の研究成果を説いていました。すると店長

から衝撃的な言葉を浴びせられました。

「パッケージ包装されたホウレンソウは売れ残っても大丈夫、という後向きでマイナスの気持ちが出るが、何のパッケージもない無包装ホウレンソウは早く売り切らなければ、というプラスの緊張感が生まれ、結局、無包装の方が、ロスは少なくなる。これが現場です。」

それを聴いた私の頭の中は、「ソッ？、確かに：、でも：」といった言葉がよぎりました。今振り返ると、そのときが、物質科学以外の研究、すなわち、流通の仕組み、そしてヒトの感情に関わる研究の重要性を初めて認識した瞬間でした。

40代後半からは流通経済や農業経営分野に足を踏み入れ、50台後半からはロジスティクスの構築に首を突っ込み、私の興味は全く予期できない方向に向いていきました。モノの研究からヒトの感情に関わる研究分野へのシフト、これは将に「研究の不連続性・第2波」でした。

定年を目前に迎えた今は、人材および組織のマネージメントに関心を持っています。今なお、研究の不連続性の中に身を委ね、その意義を自問自答しています。

不連続な研究で揺れ動いた28年間でしたが、言葉にできない充実感を感じ、私なりに納得できる28年間でした。

こんな私を暖かく見守り続けてくれた農学部そして応用生物科学部に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

お世話になった皆様へ

土井 守



昭和60年8月1日に農学部附属農場に着任以来、35年間にわ

たり大変多くの方々にお世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

そもそも私は、高校時代から生物は大の苦手で、毎日天を仰いではや星を見たり、地を見ては化石ばかり探したりしているような人間でした。そんな人間にも転職というものはやってくるものです。

高校の担任の先生に、「お前は農学部にもいっている」と言われ、私の進路が一転しました。幸運にも家禽畜産学科に入学でき、畜産化学講座に所属後は、田名部雄一先生と中村孝雄先生に、家畜・家禽の生理化学や動物の進化、さらには研究の本質を叩き込んでいただきました。神戸

大学を経て、移転したばかりの大学の農場に着任してからは、農学の基礎から大学教員の心構えを松井鏗一郎先生にご指導いただき、また農場の技術職員(旧技官)や事務職員の皆様とは自然体でお付き合いをさせていただけました。たった6年半の短い農場生活でしたが、一大学教員としての礎を築けた極めて密度の濃い年月でした。

私はその後、生物資源生産学科の中村孝雄先生の研究室に配属されました。先生が私に何の研究上の束縛をされなかったことを良いことに、動物園動物という新たな分野に手を染めてしまいました。その後の組織改編により上吉道治先生率いる動物繁殖学研究室に移ることとなり、今に至ります。両先生ともに気さくで心優しくも時に鋭いご教示を賜ったことは、研究室で雅量をもって接する態度を身をもってお教えいただきました。恩師の先生方が、さみしくも年々大学から去られていく中で、学部教職員の皆様、なかでも応用動物科学コースの先生方には幾度も励まされ、何とか諸事万端調え動めることができたと感じております。ただ皆様にはご迷惑をかけた記憶はあれども、組織に貢献した記憶は全くありません。こんな私を35年間も雇い育てていただいた寛容な岐阜大学の皆さまに、心底より拝謝申し上げます。

退職者記念事業のお知らせ

前澤重禮教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程 食品生命科学コースの前澤重禮教授は、令和3年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成4年に徳島大学医学部助手から本学農学部生物生産システム学科に助手として転任され、平成5年に助教、平成9年に教授に昇任されました。平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されました。

その間、農産物の鮮度保持に関する理論研究と技術開発に従事された後、食品流通の社会科学研究にシフトされ、卸売市場流通の研究、農業分野における生産者組織分析や農協の直売マーケティング解析、中国の食品流通研究などに取り組まれてきました。一方、入試委員長、教学委員長、監査室委員などを務められ、多年にわたり学部運営に貢献されました。また学外でも、中部経済産業局農工商等連携事業評価委員会会長、岐阜県卸売市場審議会会長、岐阜県政審議会計画策定部会会長、岐阜県食品安全対策協議会会長、ぎふクリーン農業研究センター理事、

岐阜市中央卸売市場開設運営委員会会長、日本農業賞岐阜県代表審査委員長など多くの要職を務められました。

先生のご退職にあたり、最終講義「不連続な流通ーモノの流通からヒトの心の流通へー(仮題)」を令和3年2月12日(金) 13時30分より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催しますので、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。なお、講義の後、応用生物科学部第1会議室において懇親会を開催する予定です。

(西津貴久)

土井 守教授の

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程応用動物科学コース動物繁殖学研究室の土井 守教授は、令和3年3月に定年退職されます。

先生は、前身である本学農学部家禽畜産学科を昭和54年にご卒業後、農学研究科家禽畜産学専攻修士課程を修了、神戸大学大学院自然科学研究科資源生物科学専攻博士後期課程を修了され、昭和60年に農学博士の

学位を取得されました。同年8月に岐阜大学農学部附属農場に助手として着任され、農学部講師、助教授を経て、平成14年に教授にご昇任され、35年余りの長きにわたり岐阜大学にご奉職されました。

学内では昨今の大学運営の転換にあたる厳しい情勢の中、生産環境科学課程長や応用動物科学コース長を長く務められ、組織運営に非常に貢献されました。学外では、日本畜産学会理事、東海畜産学会会長、希少動物人工繁殖研究会会長などの多くの要職に就かれ、畜産業界や応用動物科学分野で多大な貢献を果たされました。

先生は、家禽・家畜の生理や内分泌をご専門の核に、それにとどまらず、チーターやゾウなどの希少哺乳類やウミガメなどの爬虫類の繁殖生理学という当時の未知の分野を開拓され、現在の応用動物科学としての研究室の礎を築かれました。

この度のご退職を迎えるにあたり、最終講義をお願いしておりますが迷われておられます。実施の際にはホームページでお知らせいたします。最後になりましたが、先生から頂戴したご指導に対し、深く感謝申し上げますと共に、先生が作られた本学の応用動物科学を受け継ぎ、発展させてまいります。先生のご退職後のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(楠田哲士)

# 同窓会長賞受賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。令和元年度も各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究所の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

## ■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

磯貝 樹

生産環境科学課程

櫻村 陸希

共同獣医学科

中村 眞子

生命科学・化学専攻

奥村 真衣

生物生産環境科学専攻

金原 弘武

磯貝 樹

同窓会長賞という栄誉ある賞をいただき誠に光栄に思います。ご指導いただいた先生と先輩方、支えてくれた家族、ともに切磋琢磨した友人たちに感謝申し上げます。

学部4年間は講義と研究活動、iGEM（合成生物学大会）での活動に勤しみ、有意義な日々を過ごすことができました。iGEMでは活動にご賛同いただき、同窓会に多大なご支援を賜りました。改めて御礼申し上げます。

卒業後は修士課程に進学しました。この素晴らしい賞を励みに、今後も研究に邁進したいと思っております。

櫻村 陸希

この度は同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。大学4年間を通じて、熱心にご指導頂いた先生方や先輩方、共に支え合った同期、そしていつも暖かく見守ってくれた家族に心より感謝申し上げます。

卒業後は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、新社会人として

日々過ごしております。新社会人になり上手くいかないことも少なくはないですが、その度に大学で培った経験が自分を支えてくれます。これからも岐阜大学の卒業生であることを誇りに思い努力して参ります。

中村 眞子

この度は同窓会長賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

熱心にご指導下さった先生方および先輩方、また共に勉学に励み、切磋琢磨した同級生には心より感謝申し上げます。

長いようで短かった大学6年間の間、勉強、研究、クラブ活動を通じて非常にたくさんのご指導を頂きました。

今は慣れない社会人生活に四苦八苦し、忙しい毎日を過ごしておりますが、大学時代に培ってきた様々な経験を活かし、獣医師として社会貢献できるよう、努めて参りたいと思っております。

この度は本当にありがとうございます。

奥村 真衣

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を頂き、誠に光栄に存じます。熱心にご指導いただいた先生方や先輩方、支えてくれた同期や後輩達、そして、温かく見守ってくれた家族に心より感謝申し上げます。皆様の支えがあつて、大変充実した研究生生活を送ることができました。

今後は岐阜大学・大学院で学び得たものを最大限に活かし、社会に貢献できるよう努めて参ります。

金原 弘武

この度は、同窓会長賞という栄誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。今回この賞を受賞できましたのは、ご指導いただいた先生方、支えて下さった家族や苦楽を共にした同期の皆さんのおかげであります。心より感謝申し上げます。

修士課程の2年間はとても有意義なものでした。現在は岐阜大学連合農学研究科の博士課程へ進学し、研究や勉強に打ち込んでおります。今後も、第一線で活躍できる研究者になるために、日々精進して参ります。

# 吉寄基金

## C19 吉寄清己研究支援

### ヒト腸内細菌叢の代謝タイプのカタログ化

応用生命科学課程 稲垣 瑞穂

腸内細菌研究者の関心事は、個々の腸内細菌の機能を明らかにすることだけでなく、腸内細菌全体を一つのコミュニケーションと捉え、その活動状態を評価することに広がっております。

私たちの研究室でも、新鮮な糞便を用いて腸内細菌叢を再現し、その動態を調べています。ただ、腸内細菌叢は食事内容に応じて日々変化します。同じ糞便を用いた実験は糞便提供日の1回しか実施できない」という問題に常に悩まされてきました。今回の吉寄様のご支援のおかげで「腸内細菌の機能を保持したまま凍結保存する方法を見つめる」とともに、「その凍結糞便（腸内細菌叢）を用いることで、繰り返し培養・検証できる」可能性を見出すことができました。

今後は、腸内細菌叢の動態の特徴をタイプに分け、カタログ化して保

管することを目指します。個々人の腸内細菌叢をすべて明らかにすることは大変難儀ですが、タイプ別に調べることで、少しでも早く、皆さまの健康増進のお役に立てる仕事につなげていきたいと思えます。引き続き、吉寄様のご遺志に応えられるよう邁進する所存です。吉寄様、ご遺族様のあたたかいご支援に重ねてお礼申し上げます。

**C19吉寄清己研究支援寄附金の令和2年度受領者**

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己様の篤志により、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して頂いています。ご遺族様から、ご逝去後もご援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。本年度は、今村彰宏准教授の「シアリダーゼ (SIC) 選択的阻害剤の開発」と島田敦広助教の「シトクローム酸化酵素とその活性化制御タンパク質 CHCHD2 の複合体構造解析」に、それぞれ500,000円のご支援を頂くことになりました。先生方には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」に邁進頂ければと思えます。

**支部会員からの便り**

**広島県・瀬戸内の温暖な土地**

岐阜大学各務同窓会広島支部 事務局長 村田 憲治 (E大29)

学生、教職員、本部員の皆様、そして、1万2千198名の会員の皆様、お元気でいらっしやいますか。今年5月、新型コロナウイルスの影響で、原稿依頼のあった今日の中国新聞朝刊トップは、「34県一斉解除で調整 政府緊急宣言14日判断」の見出しでした。この会報に掲載して頂く頃は、きっと普段の落ち着きを取り戻して、全国で平穏な日常が戻っているものと信じております。

さて、当会は、1969年に始まり、昨年は、開催できませんでした。今年も、断念することとなりました。支部員が継続して「集う」ことに意義があると思えます。これまで欠席されていた方も「よーし、久しぶりに顔を出してみようか。」と、思ってください。幸いです。遠慮なく、次回は、ご参加ください。よろしくお願ひします。本部の報告、大学情報、支部会報告、自己紹介、近況話など、有意義な時間となります。有志による神社巡りやイベント参加もあり、継続する楽しみの一つです。

ここで観光の一部をご紹介します。竹原の大久野島のウサギ、街並み保存地区。東広島市の歴史ある風情を残す酒蔵を巡ったり、音戸の瀬戸など、穏やかな島々の風景も魅力。呉の大和ミュージアム他。5月上旬の広島市内「フラワーフェスティバル」。中旬の福山バラ祭り。そして、昔から「神の国」として崇められてきた廿日市の宮島。厳島神社の華やかな社殿や、朱塗りの大鳥居。宮島水中花火大会など県内各地の花火も注目。楽しさいっぱい

です。平和都市ひろしまを象徴する原爆ドーム。これらは、世界遺産として名高い人気スポットです。広島お好み焼や、もみじ饅頭といったご当地グルメも豊富。11月から翌年2月は、海のミルクともいえる力キが必食。新鮮な身に、濃厚な磯の香りが詰まっています。ぜひ、ご賞味ください。最後に、全国の皆様。観光を通じて、広島への応援もどうぞよろしくお願ひ致します。



未来の担い手

岐阜県職各務同窓会長（岐阜県林政部長）

荻 巢 雅 俊

「岐阜は、木の国山の国」、岐阜県民なら誰でも知っている「岐阜県民の歌」のさびのくだりです。歌にちなんだかどうかわかりませんが、岐阜県組織に「林政部」という独立した部があり大きな特徴となっています。このような組織は全国的には、長野県林務部と2県だけです。本県では、林政を担う人材は、「森林科学」という専門分野で採用され、各務同窓会員となっている職員は、大変多く、林政部を中心に約60人います。（因みに岐阜県職各務同窓会員は、全体で約300人です。）

林政部は、森林の整備、県産木材の活用、治山等の仕事をしています。特に最近では、頻発する気象災害のリスクを下げるため、森林のもつ多様な機能を有効に発揮させる取り組みに力を入れています。もう一つ力を入れている取

ぎふ木遊館ホームページ : https://mokuyukan.pref.gifu.lg.jp
morinosホームページ : https://morinos.net



morinos HP



ぎふ木遊館 HP

同窓会連合会会長賞受賞者の挨拶

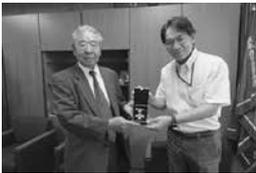


土川 健之

このたび、岐阜大学同窓会連合会会長賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。私は、昭和39年、先の東京オリンピックの年に農学部獣医学科に入学、第16回の卒業生です。現在の各務同窓会榎木利昭会長は、学友のおひとりです。在学当時から同期生30名は仲が良く、後期高齢者となった今も、都合のつく仲間が集まり、昔話や近況を語り合っており、ポケ防止に役立っています。

学生生活は甲もなく乙もなく過ごしたと思っておりますが、卒業を控え、就職先を決めるに当たり、専攻した外科教室の助教授から「土川は体がデカいから、牛か馬やなあ」と勧められ、何のためらいもなく日本中央競馬会（JRA）を受け、無事に採用されました。昭和43年に入会以来、約50年の間、競馬発展を通じて世の中のお役に立ちたいという一心でつとめてまいりました。昨年、令和元年春の叙勲におきまして、長年に亘って競馬の発展と畜産の振興に貢献したことが認められ、「旭日中綬章」を授かり、身に余る光栄に感じております。競馬主催者がこうした章をいただけるのは、競馬が健全なレジャーであり、またスポーツとして認知されたという思いで感無量でありました。この章は、これまで競馬の屋台骨を支えてこられた全ての方々からいただいたのだと思っております。さて、JRAには、岐阜大学を卒業された獣医師の諸先輩が

【叙勲受章】三輪精博名誉教授（平16） 瑞宝中綬章、9/1（火）



三輪精博名誉教授におかれましては令和2年4月29日、瑞宝中綬章を受章されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため皇居における授与式典は中止となり、9月1日、光永学部長より授与されました。

三輪名誉教授は、農業機械学の分野において、大型農業機械を導入して高能率で高効率な生産を行うために必要な圃場整備の設計基準の整備、籾乾燥機の導入による胴割れ問題の解明、さらに穀物貯蔵施設における品質保持などの成果を上げ、我が国の農業機械化の進展に貢献されました。

叙位・叙勲（会員）
次の通り叙勲を受けられました。
後藤 典史 氏（E大19）
瑞宝小綬章
（令和元年5月21日）

## 不明支部について

不明支部につきましては、代表委員会に報告するとともに、会報に掲載し、一年間連絡を待ちます。連絡がとれない場合は、次年度の代表委員会で廃止を議論することになります。

下記の支部は、昨年度の代表委員会において一年間の猶予をもって情報をお寄せいただくことになりました。事務局でも調査中ですが、会員の皆様からの情報をお待ちいたしております。(昨年度会報に掲載していないため今年度一年間)

「福井県支部」 「岐淀会支部」 「山口支部」



訃報

昨年の会報100号以後、令和2年8月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

農学科		C23	伏見 知道	V大2	内川 延夫	家禽畜産学科	
A14	金藤 洋一郎	C23	安福 幸雄	V大5	小島 昭夫	P大2	梅田 勲
A21	高田 要平	C24	今泉 恒司	V大6	加藤 謙次	P大5	牧村 正敏
A21	箕浦 勘男	C24	鶴見 鈞弥	V大6	柴山 敏	生物資源利用学科	
A22	岩堀 優	C24	森 正實	V大6	中島 昭	R大16	鈴木 慎一郎
A22	太田 正夫	C25	名和(成田) 清	V大7	豊田 竜平	農村工業実科	
A24	土井 幸一	農産製造科		V大11	小島 厚生	AT7	間宮 幸造
A25	大久保 尊	M1	柴山 新二	V大11	水野 義之	農業専修科	
A25	香村 敏郎	M2	八木 直樹	V大34	横井 岳志	ST(昭21)	森田 幸雄
A大2	桂井 恒安	農芸化学科		農業工学科		大学院農学研究科修士課程	
A大3	杉山(杉浦) 利明	C大3	上宮 靖夫	E1	仙石 寿美蔵	MC1	由良 昌昭
A大5	近藤 拓治	C大6	市川 昭治	E3	伊藤 嘉幸	旧教員	
林学科		C大9	春日 明	E大2	大澤 芳男	旧教員	渡邊 乾二
F16	中屋 健彦	獣医学科		E大4	有田(中村) 貞雄	旧教員・N大10	石井 征亞
F20	松本 勤	V2	藤原(佐々木) 照雄	E大5	加藤 達郎		
F22	加藤 忠作	V2	野村 敏夫	E大9	大橋 正道		
F大8	祖父江 貞夫	V6	加藤 正	E大10	神戸 幹郎		
農芸化学科		V6	窪田 篤二	E大17	神崎 典一		
C12	門田 利秀	V6	国島 進司	E大17	三岡 孝幸		
C19	松下 陽吉	V8	中田 貞夫	総合農学科			
C21	黒田 久寅	V8	福井 正信	N大3	望月 一吾		
C22	板垣 知雄	V9	平光 正博	N大4	生田 徳男		

渡邊乾二先生を偲んで

渡邊乾二先生は令和元年12月11日にご逝去されました。

先生は昭和12年に京都でお生まれになり、その後東北大学に進学されました。ご卒業後、名古屋大学、岐阜大学、東京農業大学と各地の大学でご活躍され、岐阜大学では名誉教授の称号を受けられております。

渡邊先生との出会いは私が平成3年に岐阜大学に採用が決まった時となります。アパート探しなど、親身になって面倒を見ていたことから始まりました。その時に「私は定年まで10年なのでその間に卵白、特にオボムチンの構造と機能を明らかにしたい」という言葉をいただきました。渡邊先生が生まれながらの研究者であるという印象を持ちました。その後、お言葉の通りにオボムチンの構造と機能の解析に精力的に取り組みされました。歴代の学生・院生の皆さんの協力もあって岐阜大学をご退職される際には卵白タンパク質の機能に関する多くの研究論文を発表されていたとともに、オボムチンαサブユニットの全塩基配列の論文がアクセプトされました。そのとき「αサブユニットだけだったけど最初の目標がなんとか達成できたかな」と喜ばれていた笑顔が今も印象的です。私自身は大学

院生時代には低分子成分の分析を行っていましたが、先生にお会いしたことをきっかけにタンパク質へと踏み込み、現在に至っていることを思い起こしますと先生の影響がいかに大きかったのか改めて思い知らされます。

大学の運営面でも教務委員長、評議員、連合大学院研究科長を務められました。教務委員長をされていた際には、何かあった時に名古屋のご自宅からでは来れなくなってしまう申し訳ない、センター試験の前日から大学に泊まられて備えるような責任感の強い一面もお持ちの方でした。

東京農業大学をご退職後も食品メーカーの技術顧問として、定期的な講義やディスカッションをこなされており、講義の間ずっと立ちになって話されるとともに、時間を忘れて熱心に意見交換を続けられたと研究員の方からも伺っております。令和元年8月には「まるとわかる タマゴ読本」を出版され、最後まで執筆活動、啓蒙活動にも情熱をお持ちで頭が下がります。

末筆となりましたが、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げますと存じます。

(元教員 下山田真(静岡県立大学))

## 各務同窓会報

## 石井征亞先生を偲んで

石井征亞先生は、令和二年三月十一日に永眠されました。享年八十歳でした。私も、先生が本学教授在職時に指導を受けましたので大変残念でなりません。石井先生は、昭和四十年十月に岐阜大学農学部農業工学科助手に採用されて以降、昭和六十一年十一月に同大学農学部農業工学科農業動力学講座教授に就任し、昭和六十三年からは生物生産システム学科教授として学内の教育・研究に貢献しました。平成十五年三月に定年により退職されて以降は、名古屋商科大学非常勤講師、愛知学泉大学非常勤講師を務めておられました。

石井先生の研究生人生は、農業工学を取り巻く社会・研究情勢と向き合いながら劇的に変貌しておられます。学部改組前は農用トラクターのエンジン燃料について研究されましたが、学部改組後の生物生産システム学科生物生産制御学講座では、一転して施設園芸や植物工場について研究されました。私は、講座の研究対象が転換する過渡期に先生の指導を受けました。周辺の教員や学生も含めてその変化に戸惑う人も多い中、今後の重要となる農業研究対象として、新しい分野に挑戦する姿勢は大いに参考になりました。その後の学部改組の流れをみると、当時の判断は正しかったといえます。

農業動力学から環境調節工学へ転身後、人工光源を利用する太陽光補光制

御システムおよび完全制御型実験栽培装置を開発して特許も取得し、平成六年度日本植物工場学会学術奨励賞「太陽光補光制御システム」を受賞しています。また、光の波長や強度が植物の生育特性（主として花成）に及ぼす影響について植物生理学的な研究にも取り組んでいます。それらの指導を受けた卒業生からは現在も第一線で活躍している研究者が育っております。

ご退官後は、数える程度しかお会いすることがありませんでしたが、終始穏やかに接してくださりました。ここに、生前のご厚情に対して心より感謝申し上げます。皆様とともに先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（嶋津光鑑）

## 叙位・叙勲

尚、先生は、次のとおり叙位・叙勲を受けられました。

**石井 征亞** 名誉教授 (N大10)

正四位 瑞宝中綬章

(令和2年3月11日)

# 岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業

応用生物科学部長 光永 徹

岐阜大学応用生物科学部は2023年をもちまして創立100周年の記念すべき年を迎えます。前身である岐阜高等農林学校が1923年12月に官制交付され、翌24年4月、現在の各務原市（旧稲葉郡那加村）に開設されました。1982年には岐阜市柳戸の現在のキャンパスに移転し、2004年4月、岐阜大学の法人化と同時に、応用生物科学部として新たな歩みを始め、現在に至っております。

少子高齢化社会、そして縮小社会と大学にとって大変厳しい時代を迎えています。一方で、本学部は高校生からの人気も高く、地域からの期待も大きいことから、地域への貢献を標榜する岐阜大学にあって、存在感をもって光り輝くことができています。これも、これまでの同窓生の皆様のご活躍の賜と深く感謝申し上げる次第です。記念すべき100周年を機に、農学部から応用生物科学部へと歩んできた道を振り返り、さらなる前進と飛躍を期し、同窓生の皆様と慶びを分かち合うため、創立100周年記念事業会を発足し、3年後の100周年記念事業の内容を検討しているところです。

100周年記念事業として、記念式典・祝賀会の開催や記念誌の発行などを予定していますが、最も力を入れていきたいことは、各務同窓会各支部の活性化です。現在、各地域にあります支部では定期的に同窓会を開催し、会員相互の親睦が図られているなか、「参加者が減少している」「会員の高齢化が進んでいる」などの声が聞かれるようになりました。こうしたことから、100周年を契機に、各支部での活動を活性化できないかと考えています。支部活性化の具体的な方法については、今後検討してまいります。何卒この趣旨にご賛同いただき、募金という形でご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

皆様もご存じのように、今年の4月から名古屋大学との法人統合がスタートし、東海国立大学機構岐阜大学となりました。両大学の農学教育研究拠点が形成され、それぞれの分野の特色を生かし、お互いの教育を補完することで、強力で魅力的な新しい農学を展開することが期待されています。3年後には、さらに進化した農学を会員の皆様にお見せし、農学部・応用生物科学部創立100周年を皆様とお祝いできることを祈念いたします。

最後に、会員各位のより一層の交流が図られ、各地域での同窓会活動が活発になりますことを期待いたします。

## ■ 100周年記念事業内容 ■

- 1 記念式典等  
開催日 2023年6月3日（土）  
場 所 岐阜大学及びグランドホテル  
内 容 講演会・植樹（大学）、  
式典・祝賀会（ホテル）  
備 考 会費制
- 2 記念誌の発行
- 3 支部活性化のための支援事業 等

## ■ 募 金 ■

記念事業を行うためには少なからぬ費用が必要であり、皆様からの募金に依存しなければならないのが事実です。何卒、諸事情御賢察いただき温かい御支援を賜りますよう発起人一同心よりお願い申し上げます。

1口2千円にて募金を募りますので、別添の振込用紙にて振込みいただきますようよろしくお願いいたします。

5口以上募金いただいた方には、記念誌の贈呈を予定しております。

## 岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業の キャッチフレーズとロゴマークが決定しました

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業を展開するに当たって、印刷物や記念式典など様々な場面で使われるキャッチフレーズとロゴマークを募集しましたところ、同窓生の皆さんから、キャッチフレーズ

19点、ロゴマーク8点の応募がありました。100周年記念事業会役員会で応募作品について厳正な審査の結果、キャッチフレーズは酒井貞明さん、ロゴマークは田口愛珠さんの作品に決定しましたのでお知らせします。

### ★キャッチフレーズ

「100年の伝統 清流のごとく さらに未来へ」

（作者：酒井貞明さん A大35農学科）

採用されたロゴマークおよびキャッチフレーズは、岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業に関する各種印刷物や記念式典等において使用します。各支部等で積極的に活用していただきますようお願いいたします。ロゴマークは電子データ（画像ファイル）で送付しますので、同窓会事務局まで連絡をお願いします。

### ★ロゴマーク



（作者：田口愛珠さん  
AE大12 生産環境科学課程）

# あとうがき

会員の皆様には、格別のご協力とご支援を賜り、日頃より厚く御礼申し上げます。

岐阜大学は、パンデミックによる緊急事態宣言公示と時を同じくして、国立大学法人東海国立大学機構・岐阜大学として生まれ変わりました。残念ながら、予定されていた多くの行事が中止、縮小され、波乱万丈のスタートとなりました。本同窓会の活動も縮小を余儀なくされています。このような状況の中にも同窓会報を発行できるのは、本誌に寄稿くださいました会員の方々をはじめ多くの会員の方々の思いが重なっている証です。

今、多くの会員の方々が難局に立ち向かわれていると思います。本会報に立ち寄り、目を通して頂けていることに感謝申し上げます。どうか一息ついて、学生時代に思いをはせて頂ければと思います。「凜平真摯」の理念を再確認して頂ければと思います。

岐阜高等農林学校の時代が培ってきたものは、新しい時代を作るための人材の育成であったと思います。岐阜高等農

林学校開学は関東大震災と時を同じくしており、国難を乗り越えるための人材を輩出、新しい時代を作り、今の岐阜大学応用生物科学部にまで発展してきた歴史があります。さらに、もうすぐ100周年になる伝統校として、難局を乗り越える中で岐阜県を支え、国を支え、新しい社会を作ってきた誇りがあります。先が読めない状況の中にあっても、岐阜大学応用生物科学部の卒業生がその責任を担わされていることは明らかです。

新しい時代がスタートする今、岐阜大学はその存在意義が問われます。それは、各務同窓会の方々の活動を通して評価されるのだと思います。皆様の活躍をお願いするとともに各務同窓会を通して新しい時代づくりに参加できれば幸いです。

## 寄附金のお願いについて

平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

### 申込書の記入方法

\* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学応用生物科学部学務係気付  
岐阜大学各務同窓会事務局

**【申込書】**

別紙様式1号 (第3条関係)

国立大学法人東海国立大学機構 機構長 殿

寄附者 住所 〒 - 氏名 印

住所氏名を記入し、押印してください。

金額を記入してください。

寄附金額	金	円	備考欄						
			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">寄附目的 (該当するものの左側に○をしてください。)</td> <td style="width: 50%;">備考欄</td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 学術研究助成  <small>研究担当者氏名は 学科・講座名など 研究課題名 (ある場合)</small> </td> <td> <input type="checkbox"/> 学生(教育)支援 部局名:  <input type="checkbox"/> 大学(部局)支援 部局名: 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金  <input type="checkbox"/> その他(右に具体的に記入ください。) 部局名:                 </td> </tr> <tr> <td colspan="2">備考</td> </tr> </table>	寄附目的 (該当するものの左側に○をしてください。)	備考欄	<input type="checkbox"/> 学術研究助成 <small>研究担当者氏名は 学科・講座名など 研究課題名 (ある場合)</small>	<input type="checkbox"/> 学生(教育)支援 部局名: <input type="checkbox"/> 大学(部局)支援 部局名: 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金 <input type="checkbox"/> その他(右に具体的に記入ください。) 部局名:	備考	
寄附目的 (該当するものの左側に○をしてください。)	備考欄								
<input type="checkbox"/> 学術研究助成 <small>研究担当者氏名は 学科・講座名など 研究課題名 (ある場合)</small>	<input type="checkbox"/> 学生(教育)支援 部局名: <input type="checkbox"/> 大学(部局)支援 部局名: 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金 <input type="checkbox"/> その他(右に具体的に記入ください。) 部局名:								
備考									

|  |  |  | 備考欄も記入してください。   卒科   卒回(卒年) 第 回(昭和・平成・令和 年 卒・修) |

注) 備考欄には、条件(簡単な研究報告が必要など)、分割納付の必要などがあれば記入してください。  
2. 研究助成金の場合、決定通知等を添付ください。

納入依頼書 送付先情報 (金銭・団体などの場合)	送付先住所: 担当部署: 担当者名: 電話番号・E-mail:
--------------------------	--

## 第101号

令和2年11月30日  
**岐阜大学各務同窓会**  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
TEL (058) 293-3411 FAX (058) 293-2841  
振替 00820-9-12742  
<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/>  
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp